

(款) 20衛生費 (項) 10清掃費 (目) 10じん芥処理費

◎処理の経費

最終処分事業

【 環境施設課 】

【総合計画上の位置づけ】

都市環境を保全・創造するまち

生活環境:環境にやさしい省資源・循環型社会を実現しているまち

【事業の目的】

対象 焼却炉から排出される焼却残さ

意図 焼却残さの適正な処分及び資源化の推進を図るため。

効果 最終処分場周辺の環境を保全し、焼却残さの資源化を図ることにより、循環型社会が形成される。

【事業の内容】

(1) 焼却残さ溶融固件事業

- ・ 焼却残さ全量を溶融固化し、路盤材等に加工することによって資源化を推進した。

(2) 最終処分場維持管理事業

- ・ 最終処分場周辺の環境を保全し、適切な維持管理を行った。

【中事業に含まれる実施計画事業】

焼却残さの最終処分(3-3-2-④)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
245,543	245,543	236,664		8,879
主な支出内訳				
・ 焼却残さ溶融固件事業				
焼却残さ溶融固化処理業務委託料				202,702
焼却残さ溶出・含有量検定業務委託料				244
鹿嶋市環境保全協力金				273
・ 最終処分場維持管理事業				
集水設備等維持修繕料				0
最終処分場保有水等搬出処理業務委託料				1,039
最終処分場ダイオキシン類調査業務委託料				377
観測井戸水運搬業務委託料				231
最終処分場用地等営農損失補償金				30,029

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) なし
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) なし
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) なし
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 焼却残さの資源化については、溶融固化に限らず焼成、セメント化等を含めて危機管理対応の幅を広げ、さらに安定的な処理を目指す必要があり、引き続き処理事業者情報の収集を進める。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 無
	「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に向けて、焼却残さの溶融固化処理を適切かつ安定的に推進していく。また、焼却残さの新たな資源化手法の情報把握に努めていく。		
担当課長氏名:	環境施設課長 柿崎 雅之		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 無
	溶融固化処理は、焼却残さの再生利用であり、本市の廃棄物処理の基本理念「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に適合する。今後も焼却残さの適正かつ安定的な処理を推進していきます。		
担当部名	環境部長	部長名	勝山 洋

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-22 最終処分事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	571 処分場維持管理事業					
主管課 分野名	今泉クリーンセンター(環境施設課)		関連課	環境部各課			
目標 (目標値)	最終処分場の適正な管理を行う。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	33,365千円	32,615千円	35,711千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	33,365千円	32,615千円	35,711千円			
	人員配置数	1.9人	1.9人	1.9人			
	人 件 費	17,815千円	17,957千円	17,655千円			
事務事業 運営経費	協働の パートナー						
	総事業費	51,180千円	50,572千円	53,366千円			
	市民1人当 りの経費	290円	288円	305円			
対象者1人 当りの経費							
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
各種規制基準の遵守	◎	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	100%	100%			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 最終処分場6号地は、危機管理対応のため、一部掘削開口したままの状態で維持管理を行っているが、上部の暫定利用のために行った簡易舗装を最終処分場としての管理上、早期に除去する必要がある。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 最終処分場6号地については、植木剪定材堆肥化事業場として一時暫定利用するため一部を簡易舗装していたが、最終処分場の廃止に向けた管理の視点からその除去を実施した。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 最終処分場6号地については、焼却残さの安定処理の状況に鑑み、早期に廃止に向けた手続を進める必要がある。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 最終処分場6号地については、焼却残さの資源化処理の安定度を踏まえ、廃止に向けて神奈川県と協議を進める。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	C	改善の必要性 有
	最終処分場6号地について資源化処理の現状等を踏まえ、県と協議を進め、廃止に向けた手法、条件を整えることが必要である。				
担当課長氏名:		環境施設課長 柿崎 雅之			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	C	改善の必要性 有
	焼却残さの資源化処理の状況等を踏まえ、最終処分場6号地については廃止に向けて検討を進めていきます。				
担当部名	環境部長	部長名	勝山 洋		